

安全作業手順書【排水そう清掃】ポンプ室

見積もり基準をした危険性の評価				
		重大性(B)	見積もり基準をした危険性の評価	
可能性(A)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)	
			○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)	
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)	

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の特徴	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT)
機器工具 ・車両	スコップ、ホウキ、ちりととり、てみ 酸素濃度計、大型吸引車 (バキューム車)	保護具	ゴム手袋、軍手、保護マスク、安全チョッキ 安全ぐつ、安全長ぐつ、ヘルメット

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント (～なので～になる)			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ) (私達はこうする)			リスクの再見積り		
			(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク			

準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する 使用機械、工具等の点検を行う しらすだーの動作確認を行う 防護車両の配置を確認する	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 作業前に 朝礼時に毎日動作確認をする 安全対策のため	手順を間違えて思わぬケガをする 免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう / / / 作業中に機械が故障し、思わぬケガをする 電池切れで音が鳴らずに後続車に追突される 作業中、後方及び横側から走行車両に追突される	△ ○ / / △ △ ○	× × / / × × ×	4 3 / / 4 4 3	全員で手順書、KYの内容を周知する 乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する / / 作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する 移動規制を伴う場合は、必ず防護車両を配置する	○ ○ / / ○ ○ ○	○ △ / / ○ ○ △	1 2 / / 1 1 2
	車両確認										
	作業車両準備										
	作業車両点検										



25.車両回送手順書に則る

本作業	出発準備										
	出発										
	規制内進入										
	車両移動										
	停止										
	逸走防止										

	使用機器等 準備	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△ △	△ △	3 3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から 車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○ △	△ △	2 2
	清掃作業	ポンプ室内の酸素濃度の確認 ポンプ室内の流入ゴミ等(空缶、プラゴミ類)等を除去する バキューム車(大型吸引車)にてポンプ室内の汚泥・汚水吸引作業	空気中の酸素濃度を常に18パーセント以上保つように 用具を使用して ①作業指揮者及び操縦者との合図を確認しながら ②吸引ホースの動きに十分注意して ③バキューム車のキャッチャーに飛散防止対策がされているかチェックして	/ 吸引中のホースがあたり怪我をする / 飛散防止対策がされていないキャッチャーから水蒸気等が噴 射され、通行する一般車等に降りかかる第三者被害となる	/ △ / △	/ / / △	/ 4 / 3	/ 吸引中のホースはロープ等で固定する / 使用前点検を実施し、飛散防止対策がされていることを確実に チェックする。対策がされていない車両は使用しない。	/ ○ / ○	/ / / ○	/ 1 / 1
	仕上げ (はき掃除)	掃等で清掃する 場内の確認をする	排水溝の周りも同様に 排水溝の周りも同様に	/ 場内のゴミの散乱や忘れ物に気づかず お客様車両に損害を与える	/ △	/ △	/ 3	/ 責任者は最後に必ず場内の状態を確認した後、 現場を離脱する	/ ○	/ △	/ 2
	片付け (離脱準備)	車両に使用機器・道具等を横込む 場内の確認をする	運転者は飛散防止シートをかけ 忘れ物、清掃漏れが無い再度	シートを荷台にかけず、 回送中に荷台の荷物が飛散・落下してしまう 出発前に確認を怠り、忘れ物等に気づかず離脱し 走行車両に接触する	△ △	△ △	3 3	シート及びネットを必ず使用して 飛散防止の養生を行う 現場監督者を含め二人以上で必ず 場内の確認をしてから離脱する	○ ○	△ △	2 2
	現場離脱 及び	25.車両回送手順書に則る									
	帰着	25.車両回送手順書に則る									
	駐車										
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/

特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	台車を使用する 場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接 触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から 遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1